《今後の進め方について》

（野沢座長）
　今後も考えていきたい。これらを踏まえた上で、県民に支持者を多く得ていかないと難しい。今後、各界のヒアリングやタウンミーティングを予定している。事務局から説明をお願いしたい。

（事務局：小森）
（資料6の説明）

（野沢座長）
　今の事務局の説明について意見等をいただきたい。

（障害者計画推進作業部会　木村委員）
　まとめのタウンミーティングはいつ頃の開催予定とするのか。

（野沢座長）
　いつ頃まとまるかどうかまだ見当が付かない。

（竹林課長）
　秋以降、年内には開催したい。

（山田委員）
　ヒアリングについて、意見を言いたいという団体は言えるようにした方がよいのではないか。障害者計画の時は、福祉団体に手を挙げてもらって全部話を聞いた。また、当事者団体が少ない。親の会などの意見だけではなく、当事者の意見ももっと聞くべき。

（竹林課長）
　今の指摘のあったことに関しては、案を作る際にもかなり考えた。障害者計画の意見募集の時は、意見の言いたい団体は基本的に全て受け入れた。その結果どうなったかというと、意見を言いたい団体は多くあったが、障害当事者と、それをサポートする側、進める側、日頃から興味を持っている側の方々が多くなった。また、数が非常に多くなり、一団体当たり5分くらいしか時間が取れなかった。公募すると福祉関係者だけでパンクしてしまう。
　逆に、障害者差別の問題を日頃あまり考えていないと思われる方々に考えていただいた方がよいのではないかと思った。手紙一枚で来ていただくことも難しいので、こちらからお願いに出向く必要もあろうかと思う。そういった方々にも、せめて、一度一緒に議論してほしい。
　いま山田委員のおっしゃったような意欲のある団体は、むしろ自らミニタウンミーティ

ングの発起人という形でご協力をいただきたい。その方がバランスがよい。その趣旨から言えば、障害福祉関係団体はむしろ意見交換の対象から落とすべきかと思う。
　これらの関係業界団体などにも声を掛けないといけない。実際、この一覧の中から半分来てくれるかどうかといったところだろう。しかし、逆にそういうところに活動を広げていかないといけないのではないか。
　皆さんでも議論してほしい。「議論の取りまとめが遅れてもよいから公募して、全ての応募団体の意見を聞く」ということでもよい。

（野沢座長）
　これについて、皆さんからお考えの点は。

（堀口委員）
　今の竹林課長の意見をなぞりつつ、言いにくいであろうところを補足しようと思う。例えば、今までの事例で「差別している」と挙げられている方々を引っ張り出してくるかたちで良いと思う。むしろ、関心を持っている当事者団体・家族団体などはヒアリングでなくとも書面や電子メール等で意見募集できると思う。関係各課や業界の方を引っ張り出すのが県の活動の重要な点になってくるのではないか。

（竹林課長）
「引っ張り出す」という発想ではなく、「仲間を増やす」ためにお招きするという発想で行きたい。

（野沢座長）
　業界団体等の中には確かに日頃あまり障害者に関心がないところもあろうと思う。しかしこういうところにも来てもらわないと社会に理解が広がらない。

（高梨副座長）
　仕掛けとしては竹林課長の言うとおり。障害者にも言いたいことがあろうと思うが、仲間内だけでは話が拡大しない。
　しかし、関係団体に意見を聞くにあたり、そのやり方をどうするのか。事例の概要等を事前に渡して話を聞くのか、あるいは単純に日頃感じていることを聞くのか。意見整理の資料を作り、それをお渡しして、取組みを紹介してもらったり、感想を言ってもらったらどうか。

（竹林課長）
　議論の整理は、今までの議論を論点ごとに賛否を統一せず両論を併記して、まとめて作成する。ヒアリングの際に意見を聞く際に資料とする。
　７００件の事例や議事録を全部読んでもらうというのは現実的でない。

（白川委員）
　自治会長の県全体の団体というものはあるのか。お母さん方の話の中で地域の自治会長の理解がほしいというものがあった。

（竹林課長）
　調査する。

（野沢座長）
　ミニタウンミーティングは皆で関わって開催してほしい。
　植野さんが先駆的にミニタウンミーティングをしているので、そのコツを伝授というかアドバイスしてほしい。「タウンミーティングをやりたいがどうやるか分からない」という人も多いと思う。いっそのこと植野さんがマニュアルを作ってみては。

（障害者計画推進作業部会　植野委員）
　日程や場所にこだわらず、やりやすいように。熱意次第。まずやることが大事。

（障害者計画推進作業部会　木村委員）
　精神障害では、既成の団体の協力をいただいてそこに持っていこうと思っている。

（障害者計画推進作業部会　植野委員）
　ミニタウンミーティングは、聴覚障害関係では合わせて3回開いた。皆さんもやってみてはいかがだろうか。

（障害者計画推進作業部会　木村委員）
　植野さんに質問したいのだが、なぜ、１回だけでなく2回、3回とやる必然性、経緯があるのか。回数が多ければ多いほどよいというものでもないと思うので伺いたい。

（障害者計画推進作業部会　植野委員）
　聴覚障害者が持っている諸問題を話し合うためには、１回だけで終わらせることは不可能。１回目は情報障害ということにテーマに、コミュニケーションに絞って議論した。2回目は聾重複障害者について。3回目は差別事例分析について議論した。テーマを絞ったほうがよいと思う。

（成瀬委員）
　千葉県には他にもいろいろな組織や会議があるが、例えば、私は交通問題のアドバイザーを仰せつかった。例えば、ここにあるリストでは千葉県バス協会。他にもJRなど。関係ある団体から集まってきて、意見交換をしたことが過去１回だけあった。そういうリソースを活用するのがいいことだと思う。幅広い人々が来てもらうことで、少し変わった意見が出て、話の広がりにつながる。アメーバのように手をつないでやっていくことが重要ではないか。

（竹林課長）

いま成瀬委員からよい意見を伺った。いろいろな団体の定期的な研修会や総会など、そういうところに、「障害者差別について話しませんか」と持ち込んではどうか。既存の集まりを使うので、使うエネルギーも少ないし数がこなせる。

問題は、それらの会合が把握しきれないこと。今のようなことを紹介してほしい。一言言っていただければ、知っているものを人づてで増やしていく。学校の先生の研修など、既存の仕組みの中でご協力をいただきたい。

（野沢座長）

事務局で、そのような会合で話す際に用いるペーパーを一枚用意してもらえるとありがたい。

本日は、法律的な観点からいろいろとお話しいただいた両先生に拍手を差し上げたい。（一同拍手）

時計を読み違えて非常に遅くなってしまい申し訳ない。それでは今回の研究会を終了する。